

日 付	平成29年7月25日(火)	天 気	晴れ(最高気温25℃)
主な日程	ニッケイ新聞社・サンパウロ新聞社・JICA表敬訪問 ジャパンハウス視察		
タイムスケジュール	研 修 内 容	研 修 の 写 真	
10:00 ニッケイ新聞社 表敬訪問	今日はニッケイ新聞社とサンパウロ新聞社に表敬訪問しました。  ニッケイ新聞社で取材を受けたことは、派遣目的について、団長の三輪先生が「日本とブラジルとの農業の違いを体験し、視野を広げ、また、移民の方々の日本に対する思いを聞いて日系文化を学んでほしい」と語られました。また、学びたいことについては、団員の石井さんが「将来、祖父の牛舎に就農するために、現地の畜産生産者の志を聞いてきたい」と語りました。		
11:00 サンパウロ新聞社 表敬訪問	サンパウロ新聞社では、将来の夢と学びたいことを話しました。団員の西岡君は将来、農業の普及指導員になりたいと話しており、その夢に繋げるために野菜の有機栽培について学びたいと語りました。		
14:20 JICA 表敬訪問	JICA訪問では、これまでの日系移民のための支援や、その他にどんな支援をしているのかを聞きました。戦後の1952年から戦後移住が始まり、日本の政府は、その移民のスポンサーとなり土地や農機具購入の支援をしていました。現在は、日系移民の高齢化に対して老人ホームを建てたり、日系三世、四世の日本語離れを減らすために、日本語学校を建てたりしています。また、日本人の技術者を派遣させたり、日本語・ソフトボール・野球・バドミントンを教える先生や、介護士のボランティアを派遣させていることを聞きました。		
16:00 ジャパンハウス 視察	岐阜県の建築会社が建てたジャパンハウスを視察しました。日本の近代的な建築や文化を紹介する施設になっていて、とくにブラジルの人たちが興味をもって訪れていました。		
◇1日を終えて	今日は2つの新聞社に表敬訪問しました。みんなが記者の方からの質問に、各自学びたいことを熱く語り、この派遣実習でのみんなの個人研究成果が期待できると思いました。また、JICAでは、日本からブラジル移民の支援をしているとは思っていましたが、実際に訪問してみて、私が思っている以上に多くの支援をしているのだと感じました。そのほか、サンパウロ市内を歩いたとき、街の中には上半身裸で布切れを羽織っている男性が、通行人などにお金を恵んでもらったり、ホテルの水が出なかったり、日本とブラジルでは治安や貧富の差、公共整備の違いを感じる日になり、いかに日本が安全で良い国かを実感しました。(担当 安藤)		

ニッケイ新聞社にて

サンパウロ新聞社にて

JICA訪問

ジャパンハウス視察